

令和2年度 授業改善推進プラン 英語科 (大森第三中学校)

昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・外国人講師との授業で、英語に対する意欲やコミュニケーション能力の伸長につながった。
- ・単語テストや定期考査の振り返りを行い、基礎的な力を定着させるための工夫ができた。
- ・毎日の宿題や予習における家庭学習の習慣化を意識させる工夫が必要である。
- ・基礎学力の低い生徒への個別指導が課題である。

英語の内容別結果の分析

内容	1年生	2年生	3年生
聞くこと	○話されている内容を聞き取ろうとする意欲は高い。 ○リスニング力は良好である。	○校内平均正答率は、目標値を6.6P(ポイント)上回っている。 ○リスニング力は良好であるが、さらなる定着を図る必要がある。	○校内平均正答率は目標値を11.3P(ポイント)上回り、また区、全国平均値と同等な数値が出ている。 ○リスニング力は良好である。
読むこと	○簡単で短い文章を理解することは、現段階では概ね良好である。 ○音読に対して抵抗感を示す生徒はあまりいない。大半の生徒が音読に意欲的に取り組んでいる。	○校内平均正答率は、目標値を4.4P上回っている。ただ、区の平均値を2.3P上回っており、全国平均値も1.3P下回っている。 ○対話文や長文を読み取るため、定期的な練習が必要である。語彙力をつけるため、授業や家庭学習で定着を図る必要がある。	○校内平均正答率は、目標値を7.1P上回っており、区の平均値を0.5P、全国平均値を0.3P上回っている。 ○長い英文を読み取るために、今後も引き続き、練習をしていく必要がある。また、語彙の知識・理解においては、授業や家庭学習で定着を図る必要がある。
書くこと	○一部の生徒は他の技能に比べ書くことに苦手意識をもっているため、今後の基礎練習の積み重ねが必要である。	○校内平均正答率は、目標値を2.5P上回っているが、区、全国平均値を下回っている。 ○特にhowなどの疑問詞を含む疑問文の答えや、自分の得意なことなどについてまとまった英文で書く力をつけることが課題である。	○校内平均正答率は、目標値を12.3P上回っており、区の平均値を3.5P、全国平均値を3.7P上回っている。 ○英文を正しい語順に並べかえて書くことは概ねできており、自分のしたいことについて、具体的な説明や理由を書くことも概ねできている。今後も引き続き、まとまった英文を書く力を養う必要がある。

英語の観点別結果の分析

観点	1年生	2年生	3年生
関心・意欲・態度	○英語に対する関心は高い。積極的に英語を使おうとしている。 ○英語を話そうとする意欲・態度は良い。	○校内平均正答率は、目標値を4.8P上回っている。ただ、区、全国平均は下回っている。 ○英語を意欲的に聞いたり、書こうとしており、コミュニケーションへの関心は良好である。	○校内平均正答率は、目標値を13.2P上回っており、区の平均値を1.1P、全国平均値を1.5P上回っている。 ○英語を意欲的に聞いたり、書こうとしており、コミュニケーションへの関心は良好である
表現の能力	○話す表現力と書く表現力は標準程度であるが、個人差がある。さらに演習に取り組みさせる必要がある。 ○外国人講師と連携し、より実践的な表現活動の場面を設定していく。	○校内平均正答率は、目標値を1P上回っているが、区、全国平均値を下回っている。 ○今後外国人講師と連携し、自ら積極的に会話をする力をつけることが必要である。	○校内平均正答率は、目標値を17.9P上回っており、区の平均値を3.6P、全国平均値を4.9P上回っている。 ○今後も外国人講師と連携し、実践的な表現力を高める活動を行う必要がある。
理解の能力	○聞くことと読むこととの理解力は標準程度である。 ○理解力の伸長のため、ICT教材を使用し授業をしていく。	○校内平均正答率は、目標値を6.2P上回っているが、区、全国平均値よりも少し下回っている。 ○対話文や長文に慣れ、何が問われているのかを読み解く力をつけることが課題である。	○校内平均正答率は、目標値を10.4P上回っており、区、全国平均と同等な数値が出ている。 ○長文に慣れ、何が問われているのかを読み解く力をつけることが課題である。
知識・理解	○基本的な語彙や文法の定着は概ね良好である。 ○徐々に異文化理解の機会を増やす。	○校内平均正答率は、目標値を3.8P上回り、また区、全国平均値よりも上回っている。 ○現在進行形や過去形の疑問文などの語形、語法の定着は概ね良好である。	○校内平均正答率は、目標値を6.1P上回っており、区の平均値を2.6P、全国平均値を1.7P上回っている。○比較表現を用いる文の構造や様々な単語を復習する必要がある。

英語の課題と具体的な授業の改善策

学年	課 題	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○難易度が増していく語彙や文法項目を、スムーズに定着させていけるよう工夫が必要である。 ○基礎学力が定着するように、授業の工夫や確認テストなどの必要がある。 ○生徒の達成状況に合わせた指導の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習した新出単語や文法事項を繰り返し学習するよう単語テストや単元テストを行い、家庭学習の習慣を図る。 ○外国人講師を効果的に活用し、実際に会話する場面を多く設定する。それによりやる気の向上を図り、学習項目の定着につなげていく。また、毎回の授業でBingoやQ&Aの活動を行うことで、英語に対する関心を高めていきたい。 ○補充学習を取り入れ個に応じた指導を行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させながら、基礎基本の定着、発展的な内容に取り組めるよう、授業の工夫をする。 ○内容別、観点別結果の分析から、聞くこと（リスニング力）、読むこと（長文読解）の力の定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させるため、ペアワークやグループワークを多く取り入れ、学んだ語法を使う活動を増やしていく。 ○リスニング力の定着を図るため、英語を聞き取る活動を取り入れる。 ○定期的にまとまった文を読み、読解力を養う。さらに、簡単な英語で自らの意見を言ったり、書いたりする活動を取り入れ、英語を使えるという自信をもてるよう、授業を工夫していく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させながら、基礎基本の定着、発展的な内容に取り組めるよう、授業の工夫をする。 ○1, 2年の学習内容の定着に不安が見られる生徒がいるため、新出の文法事項を押さえつつ、復習内容を取り入れた授業展開が必要である。 ○内容別、観点別結果の分析から、読むこと（長文読解）、書くこと（三文以上の英作文）の力の定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させるため、ペアワークやグループワークを行い、学んだ語法を使う活動を取り入れる。 ○定期的に1, 2年の復習問題練習や単元ごとの復習確認問題を取り入れていく。 ○授業のはじめに長文読解問題を取り入れ、長文に慣れることにより、苦手意識を取り除くとともに、長文の内容や要点を把握することができるようにする。 ○テーマを決めて三文以上の英作文を書く活動を取り入れ、自分の考えや、理由などを学んだ単語や文法事項で表すことができるようにする。